



ツネ

ロケ

2025年5月号
#09

皆さん、こんにちは。

SAMURAI BLUE(日本代表)がアジア最終予選を突破してアメリカ、カナダ、メキシコの3カ国共催となるFIFAワールドカップ26出場を決めたことを受け、「最高の景色を2026 FOR OUR GREATEST STAGE」を合言葉とすることにしました。

ドイツ代表、スペイン代表という優勝経験のある強豪国に勝利したカタールでの「新しい景色」を超えるという、森保一監督をはじめ選手たちが普段から口にしているワードです。本大会での優勝を目標に置くことをチーム全体で共有していて、われわれとしても彼らの思いに添えていかなければなりません。強豪国とのテストマッチ実現に動くのはもちろんのこと、ベースキャンプ地の選定も極めて重要です。シミュレーションを重ねていくつか候補を絞り、12月にグループステージの組み合わせが発表されればすぐに決定できる準備をしておく必要があります。

最終予選の戦いをあらためて振り返ってみても、本当に力をつけてきているなど感じます。中国代表との初戦を迎えるにあたり、選手たちに「前回の経験があるから分かっていると思うけど、最終予選は簡単じゃない。一体感を持って戦ってこう」と呼び掛けましたが、無用な心配だったようです。最初から最後まで集中力を保ち、7-0で圧倒したわけですから。

続くアウェイでのバーレーン代表戦にしても、翌月の同じくアウェイでのサウジアラビア代表戦にしても、前半はギリギリのせめぎ合いでした。それでも結局は自分たちの勝利に結びつけていく強さ、した

たかさがありました。それもこれもチームとしてどこを目指しているかが明確にあるからだと思います。意識を高く持って代表活動に取り組んでくれていることは、近くで見ていた私にも伝わってきました。プレッシャーもかなりあったと思います。突破を決めた後、みんなホッとされていてプレッシャーから解放された安堵感が広がっていました。

日本代表チームの充実ぶりを眺めていくと、「継承」がいかに大切かを教えてくれます。歴史の積み重ねがあって今があるということ。選手たちのコメントを聞いていてもそう感じます。その意味ではワールドカップに4大会連続で出場している長友佑都のような存在が、大きな役割を果たしていると言えるのかもしれない。

話題は変わりますが、2028年に開催されるロサンゼルスオリンピックにおいて男子サッカーの出場チームが従来の「16」から「12」に変更になることが国際オリンピック委員会(IOC)から発表されました。非常に驚かされましたが、オリンピックの舞台がU-23の選手たちにとって有意義な経験になることは言うまでもありません。1968年メキシコ大会以来となる本大会のメダル獲得を目指す戦いは、その先のSAMURAI BLUEにもつながっていくはずですが、決まった以上は、前回大会の経験を持つ大岩剛監督のもとさらに厳しくなったアジア予選を勝ち抜いてほしいと思います。われわれもしっかりと支えていく所存です。

会長の活動報告

2025年3月31日～4月17日(抜粋版)

3/31(月)

ASEANサッカー連盟 - 東アジアサッカー連盟 合同ミーティング(ホテルニューオータニ東京)



東南アジア諸国は、日本を含む東アジア地域と地理的に近く、政治・経済、歴史的にも、そしてサッカーでも深い関係があります。この度、東アジアサッカー連盟(EAFF)とASEANサッカー連盟(AFF)とで2年間のパートナーシップを再締結しました。両地域のサッカー発展のためにさまざまな面で協力を図っていきます。

日本オリンピック委員会 加盟団体会長会議(オンライン)

3/31(月)CTFA、4/12(土)HKFA

チャイニーズ・タイペイサッカー協会、 ホンコン・チャイナサッカー協会とのパートナーシップ 再締結調印式(JFAハウス、マレーシア/クアラルンプール)



東アジア地域の中においても継続して相互協力を進めています。チャイニーズ・タイペイサッカー協会(CTFA)と2回目、4/12にはホンコン・チャイナサッカー協会(HKFA)と3回目のパートナーシップを締結。ユース世代の強化や、組織運営の面などで相互協力体制を確認しました。

4/6(日)

国際親善試合 なでしこジャパンvs.コロンビア女子代表 (ヨドコウ桜スタジアム)



ニルス・ニールセン監督が率いるなでしこジャパンとしては初の国内開催試合でした。序盤からボールを支配するも得点が遠く、1-1の引き分けとなりましたが、2日後にJ-GREEN堺で開催された試合では6-1の勝利を収めました。5/30と6/2には次回のFIFA女子ワールドカップ開催地となるブラジルで、ブラジル女子代表と対戦することも決まりました。

4/7(月)

JFAアカデミー福島 令和7年度入校式 (JFAアカデミー福島)



2011年の東日本大震災で存続が危ぶまれたJFAアカデミー福島も、多くの関係者の皆さまに支えられ、福島での活動を再開できています。今年は20期生として男子18名、女子6名の選手の皆さんを迎えることができました。ここから将来の日本サッカーを支える人材が育っていくことを期待しています。

4/12(土)

第35回アジアサッカー連盟総会 (マレーシア/クアラルンプール)



アジアサッカー連盟(AFC)は世界で最も広大な地域を管轄している大陸連盟で、47の協会が加盟しています。今回の総会の前後には各国協会役員とのコミュニケーションをとることができました。AFCサルマン会長とのミーティングも実施し、現在の日本サッカーの取り組みとアジアサッカーの発展について意見交換しました。

4/2(水)千葉、4(金)山形、14(月)北海道

47FA訪問会議



4月は千葉、山形、北海道の3道県を訪問。各サッカー協会(FA)の現状や中期計画について説明いただき、登録制度改革や施設整備などについて活発に意見交換を行いました。4月中旬から「FAサポートプログラム」もスタート。各都道府県FAとJFAがより強固に連携できる環境づくりを目指していきます。

4/16(水)

WEリーグ社員総会、WEリーグ実行委員会(JFAハウス)

4/17(木)

JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス

2025年度第4回理事会が4月17日(木)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。



決議事項

競技会委員会 委員長および委員選任

競技会委員会の委員長を務めていたJFAの湯川和之専務理事が退任し、同技術委員会副委員長の蔵森紀昭さんが選任されました。また、委員の清瀬一剛JFAコーチ(女子担当)中日本統括が退任し、JFA女子委員会副委員長の能仲太司さんが選任されました。

アスリート委員会 委員選任

アスリート委員会の委員として、シントトロイデンVV(ベルギー)でプレーするプロサッカー選手の谷口彰悟さんが新たに選任されました。

国際委員会 委員選任

一般財団法人日本国際協力センター(JICE)からの申し出により、国際委員会の委員として、内山選良JICE九州支所長から打田齊道JICE 総務部長に交代になりました。

ユニフォーム規程の改正

一般社団法人日本フットサルトップリーグからの要請により、日本女子フットサルリーグ(女子Fリーグ)を同規程の適用除外対象に加えるため、ユニフォーム規程を改正することになりました。

報告事項

東アジアサッカー連盟の田嶋幸三会長が退任

東アジアサッカー連盟(EAFF)の第78回理事会および第13回総会が3月30日に東京で行われ、田嶋幸三会長(JFA名誉会長)とCHUN Hanjin副会長(韓国サッカー協会[KFA]国際委員)が辞任の意向を表明し、President Ad-interim(会長代行)としてCHUNG Mong Gyu氏(KFA会長)を指名することが決まりました。

AFCアジアカップ2031の招致

アジアサッカー連盟(AFC)の理事会が4月11日にマレーシアで行われ、オーストラリアサッカー連盟とインドサッカー連盟、インドネシアサッカー協会、韓国サッカー協会、クウェートサッカー協会、アラブ首長国連邦サッカー協会がAFCアジアカップ2031の開催に関する意思表明書を提出したことが報告されました。また、キルギスサッカー連合、タジキスタンサッカー連盟、ウズベキスタンサッカー協会が3カ国共同開催案を提出したことも併せて報告されました。

新たに2人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要な「Proライセンス」について、新たに2人が同ライセンスを取得し、これで24年度の受講生20人のうち17人が認定されました。認定者総数は598人となっています。

フットサルとビーチサッカーの競技規則が改正

「2024/25フットサル競技規則」および「2024/25ビーチサッカー競技規則」の改正について報告されました。Fリーグ、日本女子フットサルリーグ、JFA 全日本ビーチサッカー大会は4月1日から各規則が適用されます。フットサルの各種全国大会(決勝大会)も原則として同日から、地域・都道府県協会の主催大会は大会主催者が適用開始日を決定します。

協議事項

JFAメディカルセンターの件

下記「Information」内をご参照ください。

Information

JFA/Jリーグポストユース強化施策を実施

JFAは、公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)と協働し、23歳以下の世代を中心としたポストユース世代の発掘・強化を目的とした施策を実施します。23歳以下の選抜チームなどによる試合や海外チームとの対戦、海外遠征などを行い、所属チームで十分な出場機会を得られていないポストユース選手の発掘や将来を嘱望される中高生年代の選手が成長できる環境の提供、日本代表全体の底上げにつながる選手強化・育成を目指します。※4/7発表

ウォーキングフットボール普及事業 「ウォーキングひろば」全国展開

誰もが気軽に楽しめる「ウォーキングフットボール」の普及を加速するため、4月7日より「ウォーキングひろば」を全国各地の認定団体を通じて定期的に開催します。健康寿命の延伸や地域コミュニティの活性化につなげるとともに、サッカー未経験者や女性、キッズ、シニアと幅広い層と一緒にプレーする機会を創出し、サッカー文化のさらなる拡大を図ります。※4/7発表

「アクセス・フォー・オール」のハンドブックを発行

JFAは2024年4月、「アクセス・フォー・オール宣言」を発表しました。これは、グラスルーツからエリートまで誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできる多様な「機会」と「選択肢」を持続的に確実に届けるための行動指針となるものです。「アクセス・フォー・オール」ハンドブックでは、アクセス・フォー・オールに関する基本的な考え方に加え、サッカー界におけるアクセスの課題や国内外での具体的な取り組みなどを紹介しています。※4/16発表

JFAメディカルセンター 東北厚生局による監査の結果

JFAメディカルセンター整形外科クリニック(JMC)において、一部診療に適切なリハビリテーション前診察が行われていなかったことを契機に、東北厚生局による個別指導、監査が実施され、4月8日付で戒告の通知がなされました。対象となる患者および保険者に速やかに診療報酬の自主返還を行うとともに、法令を遵守したクリニックの運営を監督し、信頼回復に努めていきます。また、引き続き、スポーツ医学の発展と地域医療の充実に向けて取り組んでいきます。※4/17発表

その他の主なニュース

- ・April Dream 日本女子サッカーの夢「なでしこvision 世界のなでしこになる。」(4/1発表)
- ・JFAマジカルフィールドInspired by Disneyファミリーサッカーフェスティバル "ファーストタッチ" を国内18会場で開催(4/1発表)
- ・JFAユニクロサッカーキッズを国内20都市で開催(4/10発表)
- ・JFA×TOYO TIRESマルチススポーツチャレンジ2025 in大阪を6/8に開催(4/16発表)



JFA審判委員会 委員長

扇谷健司さんを マンマーク!

第9回はJFA審判委員長を務める扇谷健司さん。宮本恒靖会長のプロ初退場のエピソードから選手とレフェリーの関係構築、レフェリーの普及、育成、強化など話は進んでいきます。

レフェリーだって間違える。「競技規則」の浸透を

宮本 何度か扇谷さんに笛を吹いてもらった記憶がありますね。

扇谷 現役時代のツネさんは(ジャッジに対する)目立った言動があまりなかったような。

宮本 いや、若いときはレフェリーに結構言っていましたよ。ガンバ大阪での2002年シーズンで2枚のイエローをもらって初めて退場になりましたから(8月10日、北海道コンサドーレ札幌戦)。日韓ワールドカップに出て、ちょっと調子に乗っていたんでしょうね。ファウルに対するジェスチャーを含めて(異議で)まず1枚もらって、次に強めのタックルで2枚目を。主審は岡田(正義)さんでした。プロ人生でそれ1回きり。ほかのことにエネルギーを使うとか、もっと違うコミュニケーションの形を取るほうがいくなって学びました。

扇谷 退場があったんですね。意外だなあ(笑)。

宮本 ちなみに扇谷さんはピッチ上で選手に「いいパスだったね」とか伝えたことはあるんですか。

扇谷 自分も(フジタで)プレーしていましたけど、Jリーガーは私から言わせればすごい人たちの集まり。いいパスだ、なんてとても言えない(笑)。ただ素晴らしいプレーに思わず声が出てしまったことはありましたよ。2013年の最優秀ゴール賞に選ばれた柿谷(曜一朗)選手のプレー。ゴール前でボールを浮かせてから右足アウトサイドで決めたときに「オオッ!」と。

宮本 レフェリングは本当に簡単じゃないですよ。自分もA級ライセンス(現Aジェネラル)取得の際にアシスタントレフェリーをするシチュエーションがあって、オフサイドが見えなかった。レフェリーは全部見えているって思っている選手が多いですけど、そうじゃないというのは自信を持って言えますね。

扇谷 やってみるとなかなか大変だってことを分かっていただけでもないですね。ナイスジャッジと言われることもあれば、なんであれが見えないんだってと言われることも。いろんなことがある中で精神的にぶれないというのは大事ですが、経験を積まないと難しい。自信を持ってやっていますよってどう見せていくかが大切。ツネさんが言うように全部見えるわけじゃないし、間違えますから。今、「シンレポ!〜Jリーグ審判レポート〜」や「Referee Cam」などで発信しつつ、メディアの方に対しても定期的にブリーフィングをしています。Jリーグのクラブともコミュニケーションを取っていて、間違ったときには間違っただと言っています。情報発信、誠実にクラブに対応するところとは心掛けていますつもりです。

宮本 クラブにいた人間からすると一つのジャッジで勝った負けたになるし、昇格や降格、タイトルが絡んでくるためどうしても感情的になりやすい。でもオープンにしていくことで、こう見えていたんだ、こう考えていたんだ、こういうトライをしているんだとか、互いを知って、より良い関係につながっていくんだと思いますね。

扇谷 今シーズン、アクチュアルプレーイングタイムを伸ばすためにファウルを取らないとか、そういう話はしていないんですね。要は、これはファウルじゃないという場面に笛が鳴ることがあって、そこの水準を上げていこうよ、と。ただ、そういうメッセージが出るとどうしてもレフェリーは頑張ろうとして、実際にはファウルなのに取れていないこともある。そこは微調整しなければなりません。

宮本 確かにちょっと危険に映るタックルに対して流されているなど感じたことはあります。徐々に基準が統一されていくような期間だし、レフェリーの人たちがそういったところにトライして日本サッカーの水準を上げようとしてくれている。一緒になってというマインドセットと言いますか、この流れはすごくいいと感じます。

扇谷 本当にそうですね。レフェリーはポジティブにやってくれていると思います。

宮本 若いレフェリーを増やしていく、そしてワールドカップを吹くレフェリーを育成していくところの戦略は(審判委員会から)具体的な説明をもらっています。

扇谷 全日本少年サッカー大会でユース審判員に笛を吹いてもらうなど、若い人を増やすこと、しっかり育成していくことには注力していきたいですね。女子、フットサルを含めて。

宮本 扇谷さんが今、感じている課題は?

扇谷 4級審判員の方にアンケートを取ると、指導を受けたことがないというのが圧倒的に多い。コイントスをどうするのか、旗をどう上げるのか、もうそこから。審判員の数に対して指導できる人が少ないというのは課題ですね。

宮本 そういったテクニックを伝える動画とかはあるんですね。

扇谷 もちろん。ただ実際にピッチに立ってやってみると、絵が違う。レフェリーを増やしていくとともに指導できる人をどうしていくか、を考えなければなりません。また、レフェリーも間違えると言いましたけど「競技規則」を浸透させていきたいという思いもあります。サッカーとは何か、サッカー文化とは何か、知ることもできますから。

宮本 哲学的であり、深いんですね。サッカーファミリーの皆さんにもぜひ読んでいただけたらと思います。

扇谷健司 (おおぎや・けんじ)

1971(昭和46)年1月3日生まれ。神奈川県茅ヶ崎市出身。青山学院大学卒業後、株式会社フジタスポーツクラブ(現株式会社湘南ベルマーレ)入社。1994年4級審判員、1999年1級審判員取得。2003年からJリーグ主審。2007年から2017年プロフェッショナルレフェリー、2007年から2010年は国際審判員としても活躍。引退後はJFA審判委員会後身の指導に当たる。2022年からJFA審判委員会委員長。

